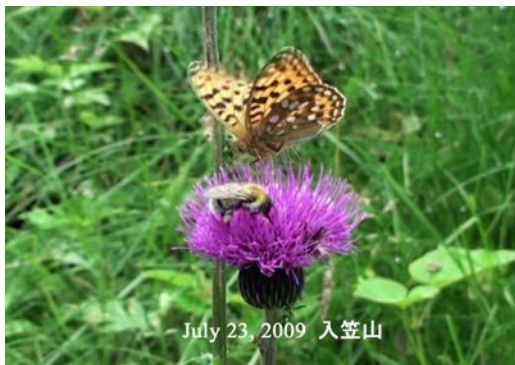


1999年7月10日：朝食後は国道230号線を北上して、最後の蝶目的地：定山溪豊平峡にむかう。駐車場のつもりで乗り入れた場所は、いきなり冷水トンネルの入口となっており、どこか変だなとは思いつつ電気自動車のサービスもあるトンネル内を徒歩でダム方向に進む。およそ2キロの距離だ。トンネルをぬけてまっすぐゆけばダムだが、蝶が目的のわれわれはすぐ右のハイキングコースへと入る。右の崖には黄色のエゾキリンソウが咲いている。まもなく新鮮なジョウザンシジミがちらちらと地面近くに現れたところをネットイン。遊歩道の左直下が深い峡谷となっていて、その崖にもエゾキリンソウが多く咲いており、北海道産亜種のギンボシヒョウモンがキリンソウを目指して次々と飛んでくる。これをカメラでねらっている間に妻が遊歩道の柵から身をのりだしてギンボシヒョウモンをネットインしたらしく、危ない行動に「落ちるなよ」と叫んでしまう。妻が採った個体は自然羽化体に時折みられる、羽の一部に穴があいてしまった個体で、それなりに貴重な記録標本となる。



2009年7月23日：富士見側から入笠山登山道をのぼるあいだ天候の回復を期待するけれども、中腹で射し込んできた陽光も長続きせず、昨年クジャクチョウなどを楽しめた目的地あたりではすっかり霧が濃くなってしまふ。天気がよければ眺望がきく位置に若者がひとり陣取っている。そこから50mほど下ったところに車をとめられるちょうどの広場があり、ネットとビデオカメラ

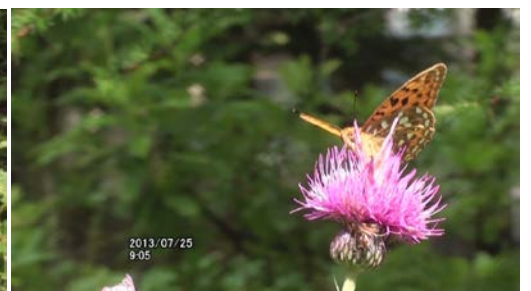
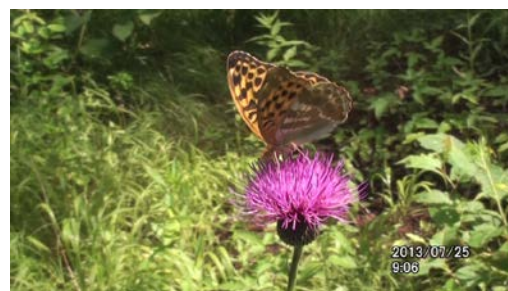


をもつて降りてみる。若者のところまでいって声をかけると、東京からきた高校1年生で、野外にでてから現地で自分自身が研究テーマを決めるSSH (Super Science High school) 指定校生徒による活動だという。彼はここにきて「シシウドを訪れる昆虫たち」を研究テーマとして、昨日から15分ごとに、これと決めたシシウドをみてまわって訪花昆虫類を観察記録しているらしく、ノートと捕獲したカミキリムシを見せてくれる。ニフハナカミキリなど普通種が多いが、彼自身は昆虫の名前はあとで調べないとわからないとのこと。車をとめた広場にもどると、アザミの

花でミドリヒョウモンの♀やギンボシヒョウモン、イチモンジセセリが蜜を吸っており、その様子をビデオで追う。

2013年7月25日：女神湖のホテル・アンビエント蓼科を出発するまでの時間、チョウを探してみる。まだ陽射しがゆるい林内へと入るとノアザミの蜜に夢中になっているスジグロシロチョウとミドリヒョウモン

がいる。ミドリヒョウモン♀のアップ撮影にとりかかっていたら、すぐ隣のアザミをギンボシヒョウモンが訪れ、さらにはすでに後翅が傷んだア



サギマダラも現れて草葉上で体温の上昇を待つようす。再びミドリヒョウモン♀の動きを追っていたらアサギマダラがヒョドリバナの蜜を吸い始める。